

会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	小倉都心地区（第3期）
開催日時	平成30年12月11日（火）13：15～
開催場所	北九州市役所 15階 15C会議室
出席者	<p>北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員</p> <p>座長 寺町 賢一（九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授）</p> <p>牛房 義明（北九州市立大学 経済学部 経済学科 准教授）</p> <p>東 恭子（第10期 北九州ミズ21委員会 委員）</p> <p>横田きみよ（コンセプトピディア 代表）</p> <p>事後評価担当（事業課）</p> <p>建築都市局 まちづくり推進課</p> <p>検討会事務局</p> <p>建築都市局 まちづくり推進課</p>
議事内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会の挨拶 2 座長、構成員の紹介 3 事後評価制度の概要説明 4 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）当該地区について説明 「まちづくりの経緯説明」「事後評価手続き等」「今後のまちづくり」について （2）事後評価手続き等にかかる検討 （3）今後のまちづくりについて検討 5 事後評価検討会後のスケジュール 6 報告事項 7 閉会の挨拶
構成員の 主なご意見	<p>○事業課より、当該地区のまちづくりの経緯、事後評価手続き等、今後のまちづくりについて一括説明</p> <p>○事後評価手続き等にかかる検討 （成果の評価について）</p> <p>寺町 座長 目標達成度の○△×の理由について、指標4、指標6は問題ないが、それ以外の未達成の指標は「…改善傾向にあるため。」という語尾の表現に違和感がある。</p> <p>事務局 他と統一して記載する。</p> <p>横田 構成員</p>

指標3のリノベーションまちづくりについては、全国的にも注目度が高くなっていること、新しい創業の動きもあることを記載してはどうか。

地区担当

定性的な効果発現状況の欄に記載したい。

(効果発現要因について)

寺町 座長

自転車共同利用支援事業については、指標4は「○」でよいが、指標6の夜間の歩行者通行量は自転車と関係があるのか。

また、新船建造事業については、指標4の市営渡船場の年間利用者数は「○」としているが、「◎」ではないか。

地区担当

自転車共同利用支援事業は、都心地区のレンタサイクルを対象としており、歩行者としてはカウントできないが、夜間の移動に自転車を利用することも想定されるため、間接的な効果もあると判断し、「○」とした。

新船建造事業については、市営渡船場の利用は間違いなく増えているため、「◎」に変更したい。

横田 構成員

漫画ミュージアム関連事業については、指標4は「◎」でよいのではないか。

地区担当

漫画ミュージアムは駅から徒歩で訪れる人が多いことから、「◎」に変更したい。

寺町 座長

観光情報ステーション事業について、その他の指標4の居住人口を「○」としたのはなぜか。

地区担当

居住人口の増減の要因はわかりにくいですが、まったく寄与していないと考えられる事業以外は「○」とした。観光情報ステーションについては、土産売り場や休憩スペースがあるため、小倉城の魅力やブランド力、都市イメージの向上につながり、ひいては人口増加に貢献するという解釈をしている。

寺町 座長

指標3の空き店舗率について「△」とした事業があるが、その理由を教えてください。

指標5の観光客数について、新船建造事業を「△」としているが、他の事業と同じ「△」とするには疑問を感じる。

同じく指標5について、低未利用地活用推進事業を「-」としているが、これでよいのか。

地区担当

指標3の空き店舗率については、アクセス性が向上する道路関連事業は空き店舗の活用を判断する際に寄与してくると考えて「△」とした。

指標5の観光客数については、島の人口が減るなかで利用者が増えており、猫の島として観光目的で利用されていると判断し、新船建造事業は「△」とした。

なお、指標5の観光客数データは、年間1万人以上の利用のある施設を対象とした観光動態調査結果に基づくものであるが、低未利用地活用推進事業は遊休不動産を活用するもので大型商業施設等を対象としていないため「－」とした。

横田 構成員

指標5の観光客数については、今回の指標にデータとして表れていない視察観光やリノベーションスクールなども想定され、今後は観光の捉え方を整理しておく必要がある。

地区担当

今回は観光動態調査の結果およびその対象を利用して評価しているが、ご指摘の点は検討していきたい。

牛房 構成員

埋蔵文化財センター展示室再整備事業について、指標3の歴史・文化・コンベンション施設への来場数「－」になっているが、関係はないのか。

地区担当

埋蔵文化財センター展示室が集計の対象となっていない。今後、集計の対象とする施設については検討していきたい。

(事後評価原案の公表について)

牛房 構成員

市民からはどのような方法で回答をもらっているのか。

事務局

メールやFAXでの回答が殆どである。

昨年の検討会でのご意見を踏まえ、SNSを活用した資料閲覧・回答の仕組みも検討したが、システムの難しいこと等から実施していない。ただし、広報媒体としては活用しており、従来のフェイスブック、ツイッターに、今年はLINEを追加した。

○今後のまちづくりについて検討

(今後のまちづくりについて)

寺町 座長

残された未解決の課題として、都心部へのアクセス環境の向上を挙げているが、駅利用者数が増えているなか、むしろ回遊性の向上が課題ではないか。

地区担当

ご指摘の意図を踏まえ修正したい。

横田 構成員

第3期計画の特徴は戦略的に点をつないで面に広げていくことと理解している。そのなかで、南口の状況が改善されていないようであるが、南口の個々の事業を魅力づけし、改善していけば、面的に広がっていくのではないかと。

地区担当

面的な取組み、回遊性の強化について検討していきたい。

東 構成員

ハード面では知恵をしぼってがんばっている。それを活かすのは人の力であり、その仕組みづくりは民間が担っていく必要がある。

また、福岡市の天神ビッグバンといったようなわかりやすい打ち出し方があれば市民の関心も高まるのではないかと。

寺町 座長

公共空間の利用促進は正しい方向性であり、これまでに整備したものを民間が利用しやすい仕組みをつくる必要がある。

地区担当

公民連携は欠かせない課題である。リノベーションの取組みは全国的に知られるようになってきた。投資できる予算に余裕があるわけではないので、民間のメリットも考えながら、連携してまちを活性化する取組みを進めていきたい。

牛房 構成員

新たな課題として、コレットのことは記載しなくてもよいかと。空港とのアクセスについても検討していく必要がある。

地区担当

都心地区の課題として認識しているが、コレットは民間施設の1つであり、この計画のなかで行政が主体となって直接何かできるわけではないため、個別の課題と考え、記載していない。

公共空間、遊休不動産は公民が互いに連携して活用していくことが大切であり、その観点からコレットの件も遊休不動産となれば、その1つとして応援・連携していきたいと考えている。

(事後評価手続き及び今後のまちづくり方策の確認について)

寺町 座長

事後評価の手続きは適切か。今後のまちづくり方策は妥当か。

全委員

異議なし

会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	城野駅南地区
開催日時	平成30年12月11日(火) 14:50～
開催場所	北九州市役所 15階 15C会議室
出席者	<p>北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員</p> <p>座長 寺町 賢一 (九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授)</p> <p>牛房 義明 (北九州市立大学 経済学部 経済学科 准教授)</p> <p>東 恭子 (第10期 北九州ミズ21委員会 委員)</p> <p>横田きみよ (コンセプトピディア 代表)</p> <p>事後評価担当(事業課)</p> <p>教育委員会 企画調整課</p> <p>検討会事務局</p> <p>建築都市局 まちづくり推進課</p>
議事内容	<p>議 事</p> <p>(1) 当該地区について説明 「まちづくりの経緯説明」「事後評価手続き等」「今後のまちづくり」について</p> <p>(2) 事後評価手続き等にかかる検討</p> <p>(3) 今後のまちづくりについて検討</p>
構成員の 主なご意見	<p>○事業課より、当該地区のまちづくりの経緯、事後評価手続き等、今後のまちづくりについて一括説明</p> <p>○事後評価手続き等にかかる検討 (成果の評価について)</p> <p>牛房 構成員 指標1で、データの観測に関しては、方法書では、企救分館と曾根分館の利用者を使って推計したということだが、小倉南生涯学習センターにあるのがその分館か。</p> <p>事業課 小倉南生涯学習センターにある中央図書館の分館は、企救分館である。</p> <p>牛房 構成員 八幡西図書館の利用実績をもとにということとは、どのように推計したのか。</p> <p>事業課 八幡西図書館の貸出者数を基本とし、八幡西区と小倉南区の人口比が、南区の方が8割で、八幡西図書館の貸出者数を8掛けして算出した。</p>

牛房 構成員

その他の数値指標で、城野駅の乗降客数を使っているが、もちろん南側の開発が進んで利用者が増えたということもあると思うが、北口のゼロカーボン街区の病院等ができた、住民も増えたりとか、あちらの影響も大きいと思うので、一部、駅北側のコメントも入れると良いと思う。

事業課

記載するよう検討する。

横田 構成員

評価指標は、北方1号公園の評価が見えにくいので、アンケートを取るとか検討してはどうか。

事業課

今後アンケートなど取り入れていきたい。

(効果発現要因の整理について)

寺町 座長

添付様式4-③の要因の分類で、「I」と記載しているが、「I」というのは、内的な要因で、予見が可能な要因ということで、看護師不足ということであれば、「IV」が妥当では。

事業課

「IV」に変更する。

(事後評価原案の公表について)

寺町 座長

ポジティブな意見をたくさん頂いているので、シートの問題はない。

○今後のまちづくりについて検討

(今後のまちづくり方策について)

牛房 構成員

文化活動に関して、地区内の医療刑務所跡地の古墳について記述してもよいのでは。また、本地区は、空き家が多く、空き家対策もこの地域の課題になると思うので、地域と連携して、今後の対策も検討してはどうか。

事業課

記載内容を検討する。

牛房 構成員

この地域出身の藤田博士は、世界的に活躍された方なので、もっと宣伝された方が良いと思う。

事業課

小倉南図書館で「藤田博士の業績と記念会の活動」の講演会を開催している。今後も色々な事業に活かしていきたい。

寺町 座長

添付様式6－参考記述の記載が、小倉都心地区と城野地区で書きぶりが違うがこれでよいのか。

事務局

統一を図った形に修正する。

寺町 座長

今回の事後評価の手続きについては、適切に遂行されたと認めても宜しいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

次に、今後のまちづくり方策について、妥当であると認めてよろしいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

それでは、以上をもちまして城野駅南地区の議事を終了致します。

会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	八幡駅前地区
開催日時	平成30年12月11日(火) 15:40～
開催場所	北九州市役所 15階 15C会議室
出席者	<p>北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員</p> <p>座長 寺町 賢一 (九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授)</p> <p>牛房 義明 (北九州市立大学 経済学部 経済学科 准教授)</p> <p>東 恭子 (第10期 北九州ミズ21委員会 委員)</p> <p>横田きみよ (コンセプトピディア 代表)</p> <p>事後評価担当(事業課)</p> <p>病院局 経営課</p> <p>検討会事務局</p> <p>建築都市局 まちづくり推進課</p>
議事内容	<p>議 事</p> <p>(1) 当該地区について説明 「まちづくりの経緯説明」「事後評価手続き等」「今後のまちづくり」について</p> <p>(2) 事後評価手続き等にかかる検討</p> <p>(3) 今後のまちづくりについて検討</p>
構成員の 主なご意見	<p>○事業課より、当該地区のまちづくりの経緯、事後評価手続き等、今後のまちづくりについて一括説明</p> <p>○事後評価手続き等にかかる検討 (成果の評価について)</p> <p>寺町 座長</p> <p>指標1の「目標達成度の○△×の理由」の欄の日本語の問題(事後評価シート添付様式 2-①)ですが、下から2行目の「建設計画等無いことなどにより」を「建設計画等が無いことなどにより」と「が」を入れた方がよいのでは。</p> <p>事業課</p> <p>そのように修正する。</p> <p>横田 構成員</p> <p>指標2の目標値が3, 365人で、評価値が3, 878人で、目標値と評価値が違うというのは、目標値の設定時点での設計と実際が違うということか。</p> <p>事業課</p> <p>目標値の設定は、基本設計時点で、計画病床数を基に算出した想定で、評価値</p>

は、実施設計時に会議室等へのベッドの配置を考え、カウントして算出した実際ベースとなっている。

(効果発現要因の整理について)

寺町 座長

その他の指標のところ、公園が◎で、道路が○になっているのは、何か理由があるか。

事業課

公園整備事業は生活環境向上に密接な関係があると考え、一方で、道路事業や八幡駅前広場整備事業は、交通アクセス環境向上の意味合いが強いと考え、間接的に影響を及ぼす○とした。

東 構成員

マンション等の建設がなかったということだが、計画があつたが頓挫したのか、想像していた様に、新しいものが出てこなかったのか。

事業課

計画段階で、把握していたものはない。

寺町 座長

指標 1 の追加指標として、添付様式 4 - ②で、八幡駅半径 1 km 内の居住人口を指標として、駅周辺の居住人口の減少は緩和していると記述しているのに、添付様式 4 - ③の改善の方針で、駅周辺の土地の有効利用を促進すると記述しているは、矛盾していないか。

事務局

表現について検討する。

(事後評価原案の公表について)

寺町 座長

特に問題はない。

○今後のまちづくりについて検討

(今後のまちづくり方策について)

寺町 座長

今後のまちづくり方策については、妥当であると認められた。

寺町 座長

今回の事後評価の手続きについては、適切に遂行されたと認めても宜しいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

次に、今後のまちづくり方策について、妥当であると認めてよろしいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

それでは、以上をもちまして八幡駅前地区の議事を終了致します。

会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	フォローアップ報告（H29年度完了地区）
開催日時	平成30年12月11日（火）16：30～
開催場所	北九州市役所 15階 15C会議室
出席者	<p>北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員</p> <p>座長 寺町 賢一（九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授） 牛房 義明（北九州市立大学 経済学部 経済学科 准教授） 東 恭子（第10期 北九州ミズ21委員会 委員） 横田きみよ（コンセプトピディア 代表）</p> <p>フォローアップ担当課 建築都市局 まちづくり推進課</p> <p>検討会事務局 建築都市局 まちづくり推進課</p>
フォローアップ報告	<p>○フォローアップ報告について （事務局及び担当課より説明）</p> <p>昨年度に事後評価を実施した地区のフォローアップについて、報告いたします。フォローアップにつきましては、事後評価の際に、推計値で評価を行っていたものについて、実測値が確定した段階で、確定値に置き換え、事後評価の確認を行うものです。</p> <p>今回の報告対象は、平成29年度完了の黒崎副都心（第2期）でございます。それでは、報告に移ります。</p> <p>【黒崎副都心地区】</p> <p>昨年度推計値で報告していた数値について、確定値をご報告いたします。お配りしている資料のうち、A3横の概要資料のチェック欄をご覧ください。黒崎副都心地区では、地区のにぎわい創出を目標として、5つの指標で評価を行っております。</p> <p>指標1「駅乗降客数」をご覧ください。評価時点の推計値 30,570 人でしたが、確定値 30,788 人と推計値とほぼ同数であり、目標を達成しております。</p> <p>指標2-1「中心商店街内の歩行者通行量」をご覧ください。評価時点の推計値 12,093 人でしたが、確定値 11,665 人、目標は達成できませんでした。</p> <p>その他指標「空き店舗率」は評価時点の推計値 14.2%でしたが、確定値 18.6%となっており、空き店舗率は増加しております。</p> <p>指標2-2「駅前ペDESTリアンデッキ上の歩行者通行量」につきましては、昨年度確定値をご報告しておりましたので、割愛させていただきます。</p> <p>指標3「地区内人口」につきましては、評価値 14,175 人でしたが、確定値 14,167 人と評価値とほぼ同値となっており、目標を達成しております。</p> <p><空き店舗率の推移について、別紙にて説明></p>

<p>構成員の 主なご意見</p> <p>事務局</p>	<p>事後評価以降の取組につきまして、別紙をご覧ください。</p> <p>① 安全・安心・快適で美しい市街地の形成 黒崎駅ペDESTリアンデッキのルーフ整備を行っております。平成29年度は、黒崎井筒屋方面へのルーフ整備を行い、今後は黒崎駅駅舎のリニューアルに合わせて、駅舎とルーフをつなげる予定です。 また、商店街エリアみち再生事業により周辺住民の方々とワークショップを行いながら、道路整備を実施いたしました。</p> <p>② にぎわいの核を基点とした交流促進・活性化 城山西線は事業が進捗し、現在一部交通可能となっております。また、駅南北公共連絡通路の整備により、副都心エリアおよび駅北口エリアへのアクセシビリティの改善を図っております。</p> <p>③ 街なか居住の促進 駅周辺には新たなマンション建設の予定があり、更なる居住人口の増加が見込まれ、公共施設跡地の民間利用促進として民間事業者へ売却した、旧八幡西区役所跡地について、現在マンション建設は概ね完成へと向かっております。</p> <p>④ 持続可能なまちづくり体制の構築 民間による自発的なイベント開催が開催され、いずれのイベントについても、大変なにぎわいを見せるとともに、予算規模や人員に合わせたイベント実施のノウハウが備わってきていると考えられます。</p> <p>⑤ 夜間を含めた まちのにぎわい創出 国家戦略特区に関連したイベントとして、黒崎駅ペDESTリアンデッキ上でのマルシェやオープンカフェの実施により、夜間の歩行者通行量が増えるとともに、商店街エリアへ向かう歩行者の増加につながりました。</p> <p>以上、事後評価検討会以降の取組について説明を終了いたします。 今後とも、まちの特性・あり方に合わせた、まちづくりを行っていくことと致します。</p> <p>特になし</p> <p>ご意見・ご質問がございませんので、以上でフォローアップ報告を終了いたします。</p>
----------------------------------	--